

職業人としてのあり方

皆さんは、地方公務員である道職員として採用され、公務に従事することになりました。しかし、皆さんは、公務員である前に職業人なのです。実社会では、職業に就く人として公務員でも会社員でも変わらぬ心構えが要求されます。

1 社会人として

社会人とは社会的に自立して行動する人間のことをいいます。年齢、性別、所属組織、社会的地位などにかかわらず、社会人である以上、だれでも社会人としての評価を同じように受けることになります。就職は人生の大きな節目である社会人としての出発であり、このことを肝に銘じるとともに、社会人の心構えをしっかりと身につけたいものです。

(1) 自立心を持つこと

自立心とは、物質的にも精神的にも、誰の庇護も受けずに生きていく心構えを持つことです。人は幼児期及び学校時代を通じて、両親や教師など様々な人たちの庇護を受け、その下で自主、独立の心構えや自立生活への訓練を受けます。「社会に出る」という言葉がありますが、それは社会的に自立した行動を始めることであり、家庭や学校で学んできた自立への心構えを実践する立場に置かれたことを意味します。最初はいかに小さくとも、自力で生きていく覚悟を持ち続け、これを次第に大きくしていくという姿勢、心構えが大切です。

(2) 行動に責任を持つこと

話したこと、行動したことの結果について責任を持たなくてはなりません。社会人は、結果によって賞賛されたり叱責されたりするなどの人格的な評価を受けます。他の人に話したこと、自分の意思で行動したことの結果が良くても悪くても、自らそれに責任を持つとともに、他の人に迷惑をかけるような言動を慎むように心がけることが大切です。

(3) 自分の考えや意見を持つこと

個人の言動は、その人の考え方の反映であり、自立した個人としては当然のことといえますが、自らの独立した考えに基づき社会人としての行動をとるようにしたいものです。それはまた、自らの言動に責任を持つことにも通じることとなります。もちろん、結果が他の人に悪い影響を及ぼすと考えられるときは、厳しい非難の眼差しとともに考え方の不備を指摘されることになります。自己の信念に基づく、しっかりとした考え方と意見を持つように努めたいものです。

(4) 約束を守ること

約束を守るとは、社会人としての基本的態度です。社会は多くの約束から成り立っているといても過言ではありません。社会人としては、まず自らが関わった約束はあくまでも守ることを基本としつつ、社会的な約束、例えば、法令、公共施設などの使用規程、職場における遵守規程なども守っていくという強い心構えが必要です。

(5) 他の方の考え方、意見を尊重すること

社会は多くの人が関わり合っている場です。人々はそれぞれの考え方や意見を持ち、それぞれの立場を踏まえて行動しています。相互に考え方や意見を述べ、状況に即してその優れたところを認め合い、自分の考え方や意見の中に採り入れて、これを修正していく不断の努力が大切であ

り、それが民主的な社会を建設していく原動力でもあるという点を理解しなければなりません。

(6) 人格を高めること

人格という言葉は、ともすれば人間の倫理的側面に限って論じられがちですが、これは一面的な議論であるといえます。人格は人間のトータルな姿であり、総合的なものです。

若いころから人格が高潔である人はまれにしか存在しません。多くの人々は日々の研さんの積み重ねを通じて自らの人格を高める努力をしています。自分が置かれている社会的立場で、自らの専門性を磨き、視野を広め、論理的な思考力を高めて考察力を養い、さらに倫理意識を高めていくことのすべてが、自らの社会人としての人格向上につながっていきます。人格の形成に終点はなく、努力を怠れば直ちに安易に流れるのが人の常である、という考えに立って不断の努力が望まれます。

(7) 社会における役割を認識すること

社会人としての役割、職業人としての役割以外にもいろいろあることを忘れてはなりません。例えば、家庭や地域社会の一員として、市町村民として、道民としてなどの立場ごとに一定の役割を持っていることを十分自覚する必要があります。

2 職業人として

(1) 一般的心構え

ア 仕事の意義を認識すること

どのような職業も社会的意義を持っています。一見、社会的意義よりも利潤の追求が目的のように見える企業についても、社会的にみれば、それによって多くの需要が満たされるという意義を持っています。自ら選択した職業に誇りを持って全力投球していく心構えが大切です。

イ 仕事の目的を理解し、その達成を努めること

仕事は、それによって生計の基礎となる収入を生み出す源泉であるという基本的な側面を持っています。したがって、仕事の目的は収入を得ることであると考えられがちですが、収入が得られるというのは仕事の結果であり、場合によっては金銭的に報酬が支払われない「名誉職」と呼ばれるような仕事も存在していることを考えれば、仕事の目的はやはり仕事の内容に即して考える必要があります。

自分の関わっている仕事はどのような目的達成のために行われている活動の一部であるのかを常に見失わないよう努めるとともに、その達成に向かって力を尽くす心構えが必要です。

(2) 組織人として

ア 能率よく仕事を進めること

組織とは、目的を最も効率よく達成するために人を配置した分業の姿です。組織人の心構えの第一歩は、組織の持つこのような特質を十分に認識し、自分に割り当てられた仕事を能率良く進めていくように努めることです。

イ 合理的に仕事を改善すること

組織を動かすのは人です。通常、組織がまず存在し、そこに人が配置されるという形となっているため、仕事の進め方はすでに定まったもの、改め難いものと考えられがちですが、組織はあくまでも全体としての仕事を効率的に進めていく仕組みに過ぎません。仕事の一部分を分担する立場であってもそれを合理的に効率の良い形に改善して進めていくことは大切なことだ

といえます。

ウ 仕事を通じて能力を高めること

組織人は、割り当てられている仕事を順調に遂行して組織全体の活動を支えることが大切ですが、それだけに留まらず、仕事を通じて組織の目的、活動の概要、組織周辺の動きなど幅広い勉強を行い、自らの能力を高めていく必要があります。

また、目標を持って困難性のある仕事に挑み、積極的にこれを成し遂げていく気概も必要です。常に向上を目指し、日々の仕事を積極的に進めていく中で、自ら研さんする心構えを持ちたいものです。

エ 秩序ある行動をとること

組織は個人の力を集積し、統合することによって大きな力を発揮し、その目的を果たします。組織は協働の場です。そこに働く人々は、秩序を重んじ、自律性のある行動をとることが必要です。

オ 職場の人間関係を良好に維持すること

新たに組織の一員となった場合には、多くの人々と一時に新しい人間関係を築かなければなりません。職場の近い人々から、良好な人間関係を築き、維持するように努めることがまず必要です。

カ 信義、礼儀等マナーを大切にすること

良い人間関係を維持し、他の人々と協働していく場合の基盤は、お互いの中に信頼関係を築くことです。そのためには信義、礼儀等マナーを大切にすることが不可欠です。約束を守る、命じられたことは責任を持って遂行する、節度を重んじ軽はずみな行動はしない、他の人を敬うなどの日頃の努力の積み重ねが、信頼され、良い人間関係を形成する第一歩となります。